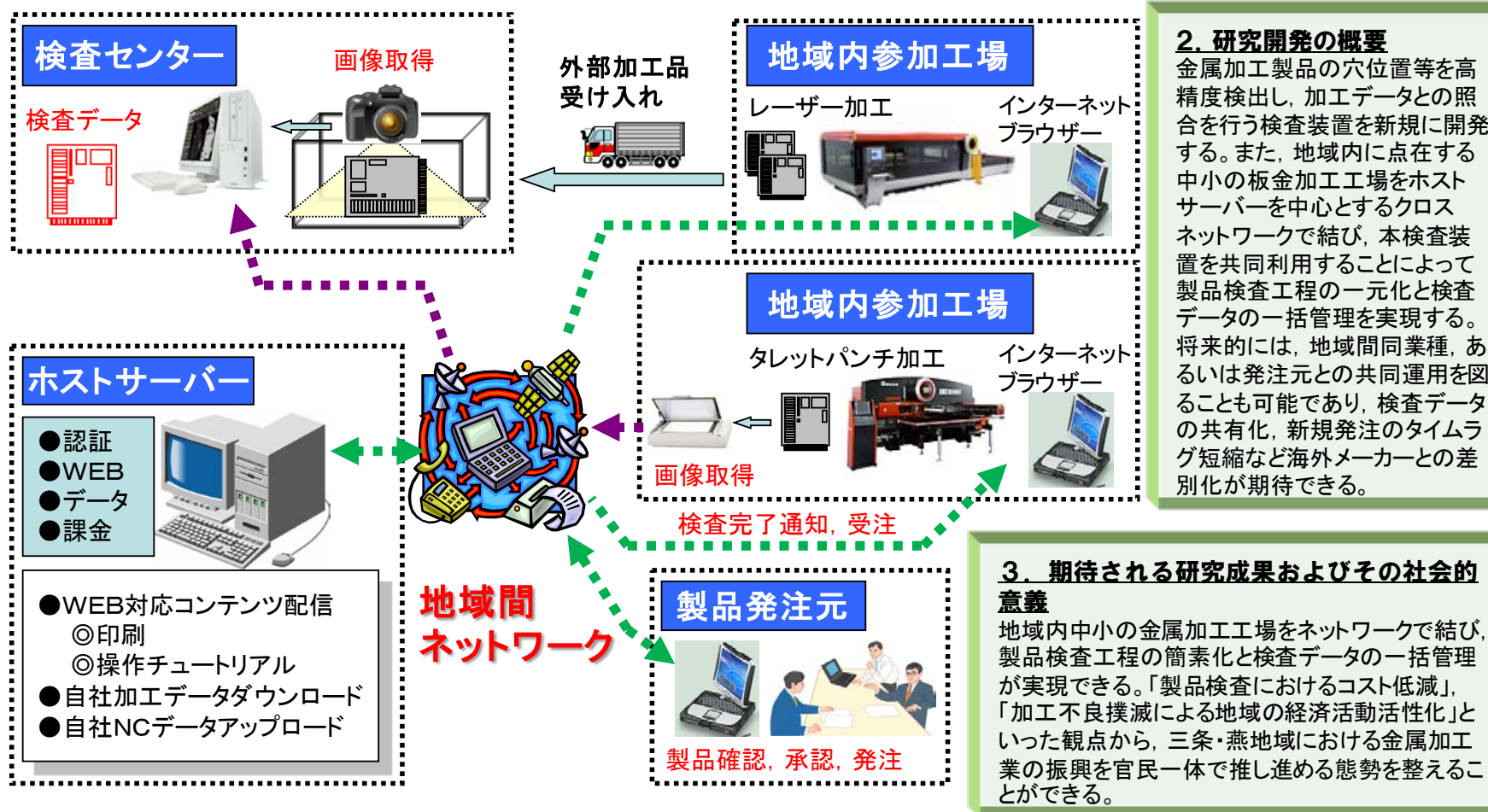


クロスネットワークを機軸とした地域間データ共有機能を有する 金属加工形状検証システムの研究開発

1. 研究目的

県内の金属加工業は日本を代表する地場産業の一つであるが、特に板金加工業界においては製品検査工程の効率向上が大きな課題となっている。本研究では、画像処理を用いた製品自動検査システムを新規開発し、情報ネットワーク網を通して共有化することによって、大幅な納期短縮やコスト削減を実現する技術の開発を目的としている。



2. 研究開発の概要

金属加工製品の穴位置等を高精度検出し、加工データとの照合を行う検査装置を新規に開発する。また、地域内に点在する中小の板金加工工場をホストサーバーを中心とするクロスネットワークで結び、本検査装置を共同利用することによって製品検査工程の一元化と検査データの一括管理を実現する。将来的には、地域間同業種、あるいは発注元との共同運用を図ることも可能であり、検査データの共有化、新規発注のタイムラグ短縮など海外メーカーとの差別化が期待できる。

3. 期待される研究成果およびその社会的意義

地域内中小の金属加工工場をネットワークで結び、製品検査工程の簡素化と検査データの一括管理が実現できる。「製品検査におけるコスト低減」、「加工不良撲滅による地域の経済活動活性化」といった観点から、三条・燕地域における金属加工業の振興を官民一体で推し進める態勢を整えることができる。